

卒業要件及び進級要件等

(1) 卒業要件

卒業に必要な単位数は124単位である。その修得方法は、必修科目として教養教育科目6単位、学部共通科目15単位、専門基礎科目6単位、専攻科目42単位(卒業論文12単位を含む)、選択科目として教養教育科目17単位以上、学部共通科目9単位以上、専門基礎科目2単位以上、専攻科目17単位以上、自由選択科目として科目区分を問わない10単位を修得することである。

(2) 教科の選択について

必修科目は、地球システム科学科学生にとって基礎的、かつ学問的核となる科目である。選択科目は、皆さんの学問的裾野を広げるために重要な科目である。そのため、できるだけ幅広い分野について履修することを希望している。一方、この選択科目の中には、卒業研究をスムーズに進めるために履修しておいてほしい教科が、研究分野ごとにある。

地質学・岩石学分野：堆積学，火山学，災害地質学，資源環境科学，地史学，
野外実習Ⅰ，地質学実験，野外実習Ⅱ，岩石・鉱物学実験，地質調査法実習

固体地球物理学分野：物理学序論，基礎物理学実験，地球物理学実験Ⅰ，地球物理学実験Ⅱ

流体地球物理学分野：物理学序論，応用数学，データサイエンスⅡ，地球流体力学，リモートセンシング学，気水圏情報処理論，地球計算機実習，地球物理学実験Ⅰ，地球物理学実験Ⅱ

上記は、これらの科目を修得していないと、その分野の研究室に進めないということを意味するものではない。各学問分野と科目の対応関係を意識しながら履修計画を立ててほしい。

(3) 4年進級の要件

卒業論文(12単位)以外の卒業に必要な単位を修得済みであること。

別表 I (第 6 条関係)

卒業に必要な修得単位数

学科 区分		地球システム科学科	都市・交通デザイン学科	材料デザイン工学科
教養教育科目		23		
専門 科目	学部共通科目	24	20	16
	専門基礎科目	8	6	13
	専攻科目	59	65	62
	小 計	91		
自由選択科目		10		
合 計		124		

備 考

自由選択科目には、次に掲げる授業科目を含むことができる。

- (1) 教養教育科目のうち、選択及び選択必修で必要と定められた単位数を超えて修得した科目
- (2) 専門科目のうち、選択及び選択必修で必要と定められた単位数を超えて修得した科目
- (3) 他学科の専攻科目及び他学部の授業科目（教職に関する科目を除く。）

【参考】 (GPA (グレード・ポイント・アベレージ) とは

GPAとは、履修科目の成績の平均値のことです。授業科目の成績判定は、秀、優、良、可、不可等があり、各評価は、グレード・ポイントの数値で示されます。(秀→4, 優→3, 良→2, 可→1, 不可→0)。

学修の状況や成果を示す指標として、学期GPA、学年GPA及び累積GPAがあり、各学年の成績通知書に学年GPAと累積GPAを記載します。学期GPA、学年GPA及び累積GPAの計算式は、以下のとおりです。(算出された数値に小数第3位以下がある場合は小数第3位の値を四捨五入する。)

$$(i) \quad \text{学期GPA} = \frac{(\text{当該学期の履修科目単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和}}{\text{当該学期の履修科目総単位数}}$$

$$(ii) \quad \text{学年GPA} = \frac{(\text{当該学年の履修科目単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和}}{\text{当該学年の履修科目総単位数}}$$

$$(iii) \quad \text{累積GPA} = \frac{(\text{在学期間中の履修科目単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和}}{\text{在学期間中の履修科目総単位数}}$$

※履修登録科目の確認を怠り、履修しない授業科目が履修登録されている場合や、履修取消の手続きを行わず受講しなかった場合の成績は「不可」となり、GPAに算入されます。